



医療の現場アラカルト - Vol.10

英語担当 0さん

フリーランス通訳翻訳者、そしてMedi-Way通訳者として稼働し始めてから、いつの間にか合わせて10年以上が過ぎました。様々な業界、分野で仕事をしてきましたが、医療通訳者として稼働し始めてからは、以前は難しそうであまりがちだった医薬業界の事をできるだけ経験してみようとしています。病院視察、製薬会社の研修、手技の研修、講演会、学会、ランチョン／イブニングセミナー等、医薬業界といっても内容、対象者は多岐にわたります。

私が、現場に行く度に痛感するのは、どうすれば患者様の役に立つことができるかという同じベクトルで、各医療従事者の視座から真剣に考え取り組んでおられるのかということです。時には貴重な休日を犠牲にされ、DXで事務効率を高めることで患者様のケアに充てられる時間を増やす、海外で用いられている手技を取り入れて患者様の負担を減らしQOLを高める、国を超えて研究成果を共有することで治療に役立てる、例を挙げればきりがありません。



通訳者として橋渡しの準備をするにあたり、日英両言語で文献を探して読み漁ったり平易に書かれたもので内容の理解に努めたりするわけですが、文系の頭には難解すぎて言葉の置き換えに終始せざるを得ず悔しい思いをすることもあります。毎回、準備、本番ともに本当に大変ですが、Medi-Wayでの業務以外の場でも日本と海外の医療従事者がお互いに何か少しでも学びを得られることがあればという思いでこれからも微力ながら貢献したいと思っています。

「ベトナムの女性の日」



ベトナムには10月20日に「女性の日」という特別な日があるのをご存知ですか？

この日は女性をお祝いする日です。日本の”母の日”や“父の日”とは違い、ベトナムでは、この「女性の日」にお母さんやおばあさん、奥さまなど、家族の女性全員を労います。また、3月8日の国際女性デーにも花束やプレゼントが贈られます。普段は家事や育児、仕事をこなす女性たちも、この日だけは何もしなくてよく、自分のためにおしゃれをして過ごすのが習慣です。興味深いのは、ベトナムには”男性の日”や”父の日”がないこと。バレンタインデーには男性が女性にプレゼントをするのも特徴的です。ある通訳士は、「年に2回も祝ってもらえるなんてベトナムの女性は幸せだね」と話していました。他の通訳士は、母の日に子どもたちからもらった「お手伝い券」に救われた経験があります。「劳い」の気持ちは心の中で抱くだけでなく、形にしてこそ相手に伝わるもの。女性たちにとって特別な日が日常生活の原動力になるのかもしれないね。

今月のトピックス



AED 命を救う各国の取り組み



Medi-Wayでは毎月医療通訳勉強会を開催していますが、AEDについて学ぶ機会がありました。AEDをめぐる各国の事情や取り組みについて、通訳士たちに尋ねてみたところ。ベトナムではAEDの設置場所がまだごくわずか、最近になってようやく国際空港などに設置され始めていますが、使い方の訓練はまだ不十分です。ペルーでも、公的・私的機関いずれにもほとんどAEDが設置されていません。その一方で、国内では毎年18,000~20,000件の心肺停止が発生しています。その場合にどのように対応すべきか国民が知識を持つことの重要性を認識し始めた議会は、ショッピングモール、ジムなどの施設でAEDの使用を義務付ける法律を推進しています。スペイン語通訳士の一人は、心肺蘇生トレーニングツールを神戸からペルーへ持ち込み、手を使って心臓マッサージをする方法を人々に教える活動を行っています。中国では自己負担でAEDを購入し、個人の車に搭載している人たちがおり、車の所有者でなくとも、必要な時に他の人が使用できます。AED搭載車には、そのことを示すマークがついています。緊急時にそのマークをつけている車の所有者に電話をすれば、遠隔操作で車の鍵を開けてくれます。電話がつかない場合には、窓ガラスを割ってAEDを使用してもよいそうです。こうした取り組みによって、一人でも多くの命が救われるといいですね。

